

FIT journal
Vol.11/ 2024.May



北陸技術士懇談会

Hokuriku Professional Engineers Conference

目 次

1. はじめに
2. 令和5年度 総会
3. 令和5年度 特別講演会
4. 令和5年度 第1回技術研修会報告
5. 令和5年度 北陸3県内合格者名簿
6. 令和5年度（2023年度）役員名簿
7. 令和6年度（2024年度）行事予定（案）

1. はじめに

2024年（令和6年）1月1日能登半島でマグニチュード7.6、輪島市で震度7を観測する能登半島地震が発生しました。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災され今なお不自由な生活を強いられている方々に心からお見舞い申し上げます。北陸技術士懇談会会員の中にも被災された方がいらっしゃると思います。重ねてお見舞い申し上げます。

日本は地震大国とよく言われており、世界で発生しているマグニチュード6以上の地震の約2割が日本周辺で発生しています。能登半島では令和4年6月にもマグニチュード5.4珠洲市で震度6を観測する地震が発生しましたが、今回はマグニチュードで2以上大きい地震であります。マグニチュードが1大きいとエネルギーが32倍になり、2違うと1000倍大きいということで今回の被害は想像に難くないものであります。建設部門はよく経験工学といわれ、大きな地震が起こるたびに基準の見直しが行われてきました。しかしながら、近年の地震による被害から学ぶのは、単に構造物の安全性を確保すればいいのではなく、電気、上下水道などのライフラインの確保も重要で、これらが確保されないと生活そのものができなくなってきております。この課題解決にむけて、多くの技術部門が集う本会は重要だと思っております。

また、3月16日には北陸新幹線が敦賀まで延伸、開業いたしました。これにより、富山・福井間が従来約80分かかっていたのが約50分と大幅に短縮されました。北陸3県がぐっと近くなり首都圏から滞在型周遊観光客を呼び込むことで大きな経済効果がもたらされると期待しているところです。北陸技術士懇談会も、従来金沢で行っていた技術研修会を今年は福井で開催するなど交流を活発化させたいと考えております。

この懇談会が、能登半島の復興、北陸全体の発展につながる技術力の研鑽、情報交流の場となるよう事務局と力を合わせ活動してまいりますので、会員の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

北陸技術士懇談会 副会長 西出 俊亮

2. 令和5年度 総会

令和5年度北陸技術士懇談会の総会・特別講演会を令和5年6月10日（土）金沢勤労者プラザ 101 研修室で開催した。

今年度も、昨年に引き続き対面形式とオンライン（Zoom）形式のハイブリッド開催とした。

開会の挨拶で今度会長から、各種行事の開催並びに今年4月に新・既技術士交流会を久しぶりに開催することができたことへの謝意があった。

総会の議事進行は会則により会長が議長となり議事を進行した。



【今度会長の開会挨拶】

1. 議 事

第1号議案 令和4年度 活動報告と決算（案）

第2号議案 令和5年度 活動計画と予算（案）

第3号議案 役員改選（案）

2. 報告事項

3. その他

以上の内容について審議を行い、いずれも原案通り承認された。

報告事項では、女性部会および若手部会の活動報告や、令和5年度より当会技術研修会が建設系CPD認定プログラムとなること、また会員名簿にインターネットを活用した新たな名簿システムの導入を検討していることについての報告があった。

3. 令和5年度 特別講演会

総会終了後、同会場において約40名、オンライン参加を含め約80名の参加により、特別講演会を開催した。

■講演内容

講演1：「実践！労働安全衛生法令の概要と具体的な活用例」

藤田技術安全コンサルタント事務所代表
藤田政次氏

過去に発生させた労働災害の経験を基に、技術者が知っておくべき労働安全衛生法の概要および仕組みや成り立ちについて具体例に沿ってわかりやすく紹介、我々の普段の業務での法令の位置付けや重要性を学ぶことができ、大変興味深い講演であった。



【藤田氏のご講演】

(1) 労働安全衛生法の制定の背景・意義

労働安全の基準は 1903 年の製糸工場を舞台とした「あゝ野麦峠」が始まりであり、1911 年に工場法が制定、15 歳未満の就業時間を 1 日 12 時間以内に制限するなど初めて労働時間が規定された。その後、昭和 47 年に労働安全衛生法が制定、死亡者数が減少し労働災害の防止に寄与している。法令の多くは墓標条文からなり、多くの犠牲を払った貴重な財産である。法令には守るべき必要最低限のことが明記されており、法令遵守は安全衛生活動の第一歩である。

(2) 労働安全衛生に関する法令の体系

法令は、労働安全衛生法・労働安全衛生法施行令・労働安全衛生規則に体系付けされており、施行令から衛生規則へより具体化して示されている。法令や規則には労働安全衛生に関する重要な情報が明記されており、具体の数字など内容を理解して活用することが必須である。

(3) 労働安全衛生法の目的および責務

労働安全衛生法は、労働災害の防止のための危害防止基準の確立、責任体制の明確化、自主的活動の促進の「3つの矢」により、労働者の安全と健康を確保、快適な職場環境の形成を促進することを目的としている。事業者は労働災害防止のため労働者の安全と健康を確保する責務があり、労働者は労働災害防止措置に協力する責務がある。事業者が果たすべき安全配慮義務は、合理的に予見可能なリスクを把握してリスクを除去、提言する義務と言えらる。「絶対安全は存在しない」「人はミスをする」「機械は故障する」を前提とし、KY活動・職場巡視・リスクアセスメントなど、労働者の命を守るために自らルールを定めて自主活動を推進することと、労働者に対しては、掲示だけでなく読ませる、聞かせるなどの問いかけ指導が重要である。

(4) 安全衛生教育

安全教育が目指すところは、安全を最重要視する態度を養い、安全を確保するために必要な事柄を自ら考えそれを実行できる人材を育てることである。テクニカルスキル（知識・技能）だけでなく、仕事をスムーズに進めるために望ましい人間関係を築き上げるヒューマン・スキルが必要である。

原点を忘れず、原理原則に従い、現場の状況を把握して実践することが重要であると力強く語った。

講演 2 : 「金沢都心のチカラ」

金沢工業大学教授、

谷口吉郎・吉生記念金沢建築館館長

水野 一郎氏

地理・地形、歴史的層性、都市構造、建築混在併存など、独自の個性を持つ金沢の特徴や魅力について、現存するさまざまな建築物を紹介しつつ、まちづくりの技術者である一級建築士の視点で切り込み解説、金沢の新たな価値を発見する内容であり興味深い講演であった。



【水野氏のご講演】

(1) 地理・地形

浅野川・犀川の 2 本の河川が、源流から河口まで市内を流れており、水管理が完結できる点で恵まれている。また小立野台地や卯辰山台地・医王山などの斜面緑地を形成し、山岳・中山間地域・里山・まち・田園・海浜など多種の地形を有しており、登り下る過程での眺望や俯瞰に優れている。

(2) 歴史的層性

約 400 年の歴史をもつ戦国城下町であり、これまでに大火災や震災・戦災に見舞われず、急変・激変を経験していない。従って、戦国・江戸・明治・大正・昭和・平成の各時代層が町割り・建築・営み・工芸・芸能等に蓄積され、各時代の価値観や美意識を味わうことができる。これを歴史的層性「バウムクーヘン」と呼ぶ。

(3) 都市構造

中枢機能の配置が、中心集中型構造であり、四方からの一点集中型幹線道路を形成している。武家・商家・工房・社寺・町家など機能的に町割りしており、道路網や用水網が屈曲し複雑に組み込まれている。近年は、日本海側に向けて都心軸を形成して県庁移転するなど、軸状都市への転換が図られている。

(4) 建築のモザイク状分布

江戸・明治から平成に至る各時代の建築が併存しており、居住・業務・商業・工房・教育・社寺・公共等の各機能が混在し立地している。そして低層の木造建築群と中高層のコンクリートや鉄骨造の建築が併存している。金沢は、経済界が古くからの街並みや用水の保全に力を入れるなど、文化が地域をリードしている。なぜ経済が都市の近代化の足を引っ張るのかとの意見があるが、金沢は伝統工芸が種類および規模とも全国上位であり、都市の規模よりもクオリティを求める路線を歩んでいる。それは、イタリアやフランスに通じるものがあり、そこが全国の他の都市にない魅力であるとのことであった。

■交流会

特別講演会終了後、会場近傍で3年ぶりに開催し、30名近くが参加した。久しぶりに会員同士の活発な交流が図られた。

(文責 福井 市埜 吉孝)

4. 令和5年度 第1回技術研修会報告

令和5年11月18日(土)、北陸技術士懇談会第1回技術研修会が金沢勤労者プラザにて開催され、会場で41名、WEBで26名の計67名の参加であった。

講演に先立ち、今度会長より、今回の研修会は当懇談会の若手技術士部会が企画しており、第一線で活躍されている若い講師による講演であるため、楽しみにしていると挨拶された。



【今度会長のご挨拶】

■講演内容

講演1：「ふるさと紀行のと里山海道の4車線化事業について」

石川県中能登土木総合事務所のと里山海道課課長
定免 英樹氏

(1) のと里山海道の歴史



【定免氏の講演】

のと里山海道は、南北に長い石川県における地域格差の是正と県全体の均衡ある発展を目的に昭和45年に「能登有料道路」として建設に着手し、昭和57年に全線の供用を開始した。平成19年3月25日には、石川県能登半島沖を震源とする最大震度6強の地震が発生し、輪島市・七尾市・穴水町を中心として住宅被害や公共施設被害が発生し、多くの方が避難所生活を余儀なくされた。能登有料道路や国道249号なども通行止めとなるなど甚大な被害が生じたが、地震発生から約1か月後には迂回路を含む全線で2車線での供用を再開し、大型連休前には能登の大動脈が復旧した。また地震発生から約8か月後には全線で本線の供用を再開した。平成25年3月には、北陸新幹線の開業効果を県内全域に波及させるため、能登有料道路は無料化となった。無料化のPRとともに、能登地域の観光誘客を全国に発信するため、新たな愛称を全国から広く公募し、ふるさと紀行「のと里山海道」となった。

(2) 4車線化事業

のと里山海道の交通量は、無料化や新幹線開業により約2倍に増加したことを受け、能登と金沢の時間距離をさらに短縮させ、人・物の交流を一層盛んにするため、平成27年度に柳田ICから上棚矢駄IC間の4車線化事業に着手した。さらに、令和5年度より、上棚矢駄ICから徳田大津JCT間の4車線化事業にも新規着手した。

(3) 最近の取組

建設業界における課題には、①労働力不足(近い将来に大量の高齢労働者が離職、若年者の入職が少ない)、②非効率な現場作業(丁張りや足場の設置、品質・出来形など施工現場には多くの人手が必要)、③建設現場の労働災害が多い(建設業は全産業と比べて2倍の死傷事故率)などがある。こうした中で、4車線化事業では現場の生産性を向上させるため、積極的にICT施工を活用しており、BIM/CIMの試行も行っている。

(4) 最後に

地震が多発する日本では、大規模地震に強い道路づくりが求められる。のと里山海道は災害時の緊急輸送道路にも指定されており、救命活動や支援物資輸送を

行う上で重要な路線となるため、安全安心に向けて橋梁の補強工事などを行うとともに、快適な走行を保つため日常の維持管理業務を行っていく。

講演2：「産学官連携における地盤情報オープンデータ化への取組み」

富士測量設計株式会社 常務取締役

中野 裕也氏

(1) オープンデータ化のこれまでの取組

公共事業等で得られた地盤情報の収集・利活用を行う「国土地盤情報データベース」の運営は、一般財団法人国土地盤情報センターが主体となること国土交通省より発表され、今後、官民が所有する地盤情報の共有化に向けた動きが

加速する。福井県では、地質調査業協会、福井大学・福井高専や福井県の産学官が連携を図り、県で所有する大量のデジタル地盤情報データをオープンデータ化するための独自のプラットフォームを整備し、地盤情報を誰でも自由に二次利用できるアプリケーションソフトウェア開発の取組みを進めている。これまでに取り組んできた内容は、2019～2021年度に近畿建設協会研究助成の採択を受け、福井県の公共事業に伴う地盤データと北陸新幹線の建設事業で調査された地盤データを用いて、福井平野の南北方向の1測線及び東西方向の2測線を対象に各種試験結果の相関図や地盤推定断面図を作成し、「福井の地盤」として出版した。また、このような公益確保につながる有用なデータを自由に二次利用できる形にしたいというニーズがあり、情報公開のあり方についてさらに議論を進めた。福井県の地盤データプラットフォームには、防災科学技術研究所が管理する「ジオ・ステーション」があるが、データ量が多く画面切り替え時の速度が非常に遅いことや、室内土質試験の結果が得られないことなどについての意見があり、福井県独自のプラットフォームの構築を目指すことになった。

(2) ソフトウェア開発

ソフトウェア開発は、地元IT企業の(株)jig.jpの協力を得て、GitHubという複数人と協働してソフトウェア開発を行うことができるプラットフォームを活用し、この中でGeoFUKUIというプロジェクトを立ち上げた。また、ハッカソン(プログラムを改良するハ



【中野氏の講演】

ック+長距離を走るマラソンの造語)という、設計者やプログラマーがユーザの声を生かしながら短期間に集中してソフトウェア開発するイベントを開催し、一般人や地質や情報を専門とする技術者、研究者、高専生が集まり、一日でソフトウェアのプロトタイプを作成した。

(3) 今後の課題

今後の短期課題として、XMLデータから柱状図や室内土質試験一覧表を表示できるシステムや個人情報削除のシステム構築、中長期課題として継続的なデータの補充、信頼性の確保、更新の仕組化などがあり、継続して議論を行っている。

講演3：「AR技術でアナログ建設現場を救え！」

北陸電気工事株式会社 総合企画部 副部長

古村 峰雄氏

(1) はじめに

建設現場では、品質管理のために寸法確認が必要である。その工事写真の撮影には、カメラ、メジャー、図面、黒板、補助員が必要であり、時には危険も伴う。大規模な現場では、工事写真が1万枚を超えるケースもあり、多大な時間と労力を要する。そこで、AR技術(=拡張現実)を用いて、現場での使い勝手が良く、工事記録の省力化、省人化をはじめ、品質管理にも資する工事写真アプリ「まるとARメジャーアプリ」を開発した。



【古村氏の講演】

建設現場では、品質管理のために寸法確認が必要である。その工事写真の撮影には、カメラ、メジャー、図面、黒板、補助員が必要であり、時には危険も伴う。大規模な現場では、工事写真が1万枚を超えるケースもあり、多大な時間と労力を要する。そこで、AR技術(=拡張現実)を用いて、現場での使い勝手が良く、工事記録の省力化、省人化をはじめ、品質管理にも資する工事写真アプリ「まるとARメジャーアプリ」を開発した。

(2) 開発における課題と解決策

[マーカーサイズの小型化] AR技術を用いるためには、写真撮影の際に基準となるマーカーが必要となる。現場写真はタブレット端末で撮ることが多く、写真の撮影距離は5m、マーカーの大きさは最大17.5cm(タブレットケースに入るサイズ)という要求に加え、費用面を考慮し、I社のマーカーを採用した。

[ARメジャーの精度確保] AR技術で求めた寸法と実測との許容誤差は、実務上問題が生じない5%と設定した。撮影距離や大きさによるメリットやデメリットを検討の上、単一マーカーを採用し、マーカーの認識をより確実にするため、その材質やインクを見直した。また、タブレットに備わるレンズに個体差があり、ズレが生じることが判明したため、レンズ周辺の歪みの影響が生じないようにタブレット中央に撮影ガイド枠

を表示させた。さらに、キャリブレーション機能を使用することで、個体差の解消を図り、AR メジャーの精度5%を確保ができた。

[AR メジャー移動の適正化] 現場では、様々な制約を受け、斜めから撮影しなければならないことがあるが、タブレットに表示されるスケールが水平移動では、スケール角度に違和感が生じる。その対策として、三軸計測機能(立体物計測)により、AR メジャー移動の適正化を図った。

[透過写真機能] 壁の内側となる配管や配線は、壁が出来上がると見えなくなるが、施工中の作業過程の写真をタブレットで撮影し、蓄積しているため、透過写真機能を使うことで、壁内の状況をスムーズに確認できるようにした。

(3) 最後に

工事写真アプリ「まるごとARメジャーアプリ」の開発により、①働き方改革の実現、②人手不足解消、③災害リスク低減、④品質向上、⑤お客様との信頼関係向上等の効果を期待しており、今後は、5Gを用いた遠隔現場支援にも役立つものと考えている。

■交流会

西出副会長の音頭で乾杯の後、講師を囲んで和やかな懇親に入った。お互いの近況を語り合い和気あいあいのうちに終了の時間となり、池田総務委員長の音頭で中締めの後、散会となった。

(文責：石川 辰橋 浩二)

5. 令和5年度北陸3県内合格者名簿

●令和5年度北陸3県内合格者名簿(官報及び当会で確認できた方のみ掲載：R6.3.8現在)

1) 第二次試験合格者(★当会に連絡のあった方は県名及び勤務先掲載：順不同) ◆石川会場での合格者総数：53名

県名	氏名	部門	所属先	県名	氏名	部門	所属先
富山	森本 英樹	機械部門	魚津精機工業(株)	石川	泉 愛美	上下水道部門	(株)中央設計技術研究所
富山	松本 吉永	電気電子部門	富山共同自家発電(株)	石川	今村 一太	総監-建設	
富山	松田 敦志	電気電子部門	北陸電力(株)	石川	金森 弘晃	総監-建設	(株)日本海コンサルタント
富山	筒井 清浩	建設部門	北電技術コンサルタント(株)	石川	七郎丸 一孝	総監-上下水道	(株)国土開発センター
富山	関橋 直紀	建設部門	東京コンサルタンツ(株)	福井	池田 保裕	建設部門	(株)ワカサコンサル
石川	南 雄大	金属部門		福井	上田 哲也	建設部門	(株)帝国コンサルタント
石川	請田 崇史	建設部門		福井	宇佐美 怜志	建設部門	(株)帝国コンサルタント
石川	杉山 大祐	建設部門	(株)日本海コンサルタント	福井	内田 真梨	建設部門	(株)サンワコン
石川	高井 真弓	建設部門	(株)日本海コンサルタント	福井	三田村 昌彦	建設部門	福井県庁
石川	前田 啓伸	建設部門		福井	森川 大輔	建設部門	福井県庁
石川	野村 敦	建設部門	(株)国土開発センター	福井	砂村 隆志	農業部門	福井県庁

※下記の方々をご存じの方がおられましたら、当会事務局までご一報いただくと幸いです。

氏名	部門	氏名	部門	氏名	部門
大井 拓郎	繊維部門	増澤 昌	建設部門	本郷 結子	応用理学部門
天満 稔	資源工学部門	川本 勝彦	建設部門	小林 裕典	応用理学部門
小野 凌平	建設部門	高田 博人	建設部門	早川 克美	総監-電気電子
中山 博隆	建設部門	佐々木 康治	建設部門	吉田 匠吾	総監-建設
須田 暁憲	建設部門	北澤 善幸	建設部門	松田 悟	総監-建設
松田 幸喜	建設部門	金子 飛翔	建設部門	和田 賢治	総監-建設
粟林 猛	建設部門	渡 尚志	上下水道部門	曾野 明洋	総監-応用理学
佐藤 弘行	建設部門	廣部 裕彦	衛生工学部門	山本 與志一	総監-応用理学
山田 理沙	建設部門	山本 文業	衛生工学部門	日野 康久	総監-応用理学
清水 孝二	建設部門	井関 雅仁	農業部門	加茂 圭祐	総監-応用理学
中野 佳人	建設部門	田子 京子	森林部門	栗野 信哉	総監-電子力・放射線

2) 第一次試験合格者 (★ 当会に連絡のあった方は県名及び勤務先掲載：順不同) ◆石川会場での合格者総数：194名

県名	氏名	部門	所属先	県名	氏名	部門	所属先
富山	谷口 元太	建設	北電技術コンサルタント㈱	石川	甲野 ひなた	上下水道	㈱日本海コンサルタント
富山	中西 彩水	建設		石川	小馬 愛実	上下水道	㈱日本海コンサルタント
富山	丹羽 遥香	建設		石川	千間 麻里果	建設	㈱国土開発センター
富山	樋上 一聖	上下水道		石川	田村 悠平	建設	㈱日本海コンサルタント
石川	武田 康良	機械		石川	本郷 美紗	建設	㈱日本海コンサルタント
石川	奥村 瞳	建設	㈱国土開発センター	石川	入場 悠莉	農業	
石川	貝原 礼奈	建設	㈱日本海コンサルタント	福井	西岡 哲朗	環境	(株) サンワコン

※下記の方々をご存じの方がおられましたら、当会事務局までご一報いただくと幸いです。

氏名	部門	氏名	部門	氏名	部門
能見 隆司	機械	藤本 紫衣奈	建設	大江 知聡	建設
李 成智	機械	田中 太樹	建設	長沢 真尋	建設
高塚 誠司	機械	藤橋 晶	建設	中川 雄翔	建設
北村 明生	電気電子	安田 直斗	建設	三浦 颯真	建設
福井 心	電気電子	高松 将也	建設	米元 颯史	建設
山岸 稔	電気電子	伊藤 なぎさ	建設	浅野 颯太	建設
宮川 真国	電気電子	森田 凌羽	建設	川口 渉	建設
長谷川 雅史	電気電子	小西 葵	建設	北川 真衣	建設
境田 広明	化学	島田 祥	建設	小坂 謙介	建設
中居 大貴	化学	中村 優真	建設	石田 大晟	建設
瀬尾 昭平	化学	篠田 晃拓	建設	藤田 瑞樹	建設
片山 裕加	繊維	岩田 龍也	建設	田中 結菜	建設
森 崇之	繊維	長島 凜々華	建設	袖ヶ市 杏太	建設
吉江 真太郎	金属	西 友宏	建設	渡邊 高志	上下水道
瀬木 彰雄	建設	中道 琳	建設	大浦 由紀恵	上下水道
笹野 兼太	建設	高井 柚乃	建設	柿木 里菜	上下水道
土屋 泰樹	建設	岩腰 祐磨	建設	砂田 陸	上下水道
森 大輔	建設	伊藤 渉大	建設	小笹 昌弘	上下水道
中川 倫宏	建設	西川 可純	建設	新田 命土	上下水道
池田 庸	建設	船崎 健人	建設	田中 幸四郎	上下水道
松沢 啓太	建設	古川 泰士	建設	佐藤 奈緒美	上下水道
中村 颯汰	建設	山下 魁躍	建設	古川 武司	衛生工学
中村 奎太	建設	小竹 俊輔	建設	加茂川 えり	農業
田中 清文	建設	笹川 憲代	建設	瀬川 徳子	農業
浅井 翠	建設	田口 結子	建設	柳原 智子	農業
松波 正祥	建設	北野 いち葉	建設	野田 龍斗	農業
阿部 雅文	建設	荒木 幸洋	建設	松本 紘明	農業
荒城 伸幸	建設	樋口 大和	建設	石田 雄彦	農業
横川 真寿清	建設	高橋 一幸	建設	片山 靖志	農業
松本 晋太郎	建設	丸山 彩香	建設	福川 真治	農業
齊藤 寛也	建設	坂田 健剛	建設	大路 暁	農業
寺崎 光翔	建設	稲岡 尚斗	建設	窪 珠恵	農業
沙魚川 あかね	建設	伊住 知紘	建設	宮越 淳	農業
水野 智仁	建設	角 夏希	建設	谷内 伸輔	農業
長木 美羽	建設	糸 怜星	建設	岡本 大輝	森林
山崎 玲奈	建設	安川 明子	建設	小竹原 茂人	森林
葉佐 真琴	建設	松本 爽楽	建設	庄田 光明	森林
加川 響生	建設	NGUYEN THI VAN ANH	建設	新谷 厚子	森林
橋本 莉乃	建設	磯野 佑馬	建設	鍛冶 文生	森林
江幡 丈夫	建設	新木 胡桃	建設	中谷 浩哉	情報工学
徳田 衣吹	建設	西沢 由弥	建設	島田 淳一	情報工学
中嶋 裕也	建設	小林 航	建設	野竹 信成	情報工学
寺下 竜生	建設	大石 亮介	建設	高道 吉郎	情報工学
田口 峰一	建設	浦田 光野	建設	加藤 光祐	情報工学
稲垣 実	建設	大野 開人	建設	沼澤 輝久	応用理学
羽場 寛朗	建設	唐木 優衣	建設	納村 恭平	応用理学
安川 匠	建設	針木 陽菜	建設	市川 壮彦	生物工学
渡辺 瑚乃羽	建設	水島 龍輝	建設	小澤 祐斗	環境
宮坂 龍	建設	山口 実莉	建設	荒谷 昌希	環境
霜鳥 由紀子	建設	柳本 凜	建設	澤田 志乃	環境
鈴木 将史	建設	野村 怜央	建設	柴原 寛太	環境
舘田 英里香	建設	松山 結	建設	碓井 瑞菜	環境
渡辺 千尋	建設	長谷 怜輝	建設	和田 孝司	原子力・放射線
酒井 陸	建設	萬澤 芽生	建設	佐野 友昭	原子力・放射線
鈴木 愛海	建設	所村 昂輝	建設	淵上 賀史	原子力・放射線
松下 紗也	建設	中村 裕也	建設		

6. 令和5年度（2023年度）役員名簿

役職	氏名	県名	部門			所属先	所属先役職
会長	今度 充之	石川	建設	総監		東京コンサルタンツ(株) 金沢支店	理事北陸支社長
副会長	大江 正道	富山	建設	総監		北電技術コンサルタント(株)	執行役員土木本部長
副会長	西出 俊亮	福井	建設	総監		(公財) 福井県建設技術公社	理事長
理事(総務委員長)	池田 保裕	福井	建設	総監		(株)ワカサコンサル 福井支店	支店長
理事(総務委員)	玉村 清文	石川	応用学	建設	総監	アルスコンサルタンツ(株)	部長
理事(総務委員)	初田 浩也	富山	建設			新和設計(株)	代表取締役
理事(総務委員)	山崎 裕生	福井	農業	建設		丸一調査設計(株)	代表取締役
理事(事業委員長) [事務局長]	埴 正浩	石川	建設	総監		(株)日本海コンサルタント	専務取締役
理事(事業委員)	市埜 吉孝	福井	農業			福井県丹南農林総合事務所	
理事(事業委員)	金子 義幸	石川	機械			高松機械工業(株)	次長
理事(事業委員)	酒井 信次	富山	建設			大日本ダイヤコンサルタント(株)北陸支社	主幹
理事(事業委員)	飛石 勝	福井	建設			福井県庁	グループリーダー
理事(事業委員)	野口 将志	石川	建設			(株)ホクコク地水	
理事(事業委員)	細野 恭成	富山	建設			(株)アイベック	
理事(事業委員)	松村 和雄	富山	建設	総監		北陸電力(株)	課長
理事(業務委員長)	竹内 勝信	富山	建設	総監		国土監理(株)	技師長
理事(業務委員)	石田 哲義	富山	機械			いしだ技術士事務所	所長
理事(業務委員)	鈴見 裕司	石川	建設			石川県庁	部長
理事(業務委員)	辻 隆治	福井	建設	総監		(株)サンワコン	
理事(姓・幹員)	平澤 由佳	石川	農業			(株)国土開発センター	設計3部部長
理事(姓・幹員)	梅田 祐一	福井	応用学	建設	総監	(株)デルタコンサルタント	
理事(姓・幹員)	佐々井 忍	富山	建設			共和クレーン(有)	代表取締役
理事(姓・幹員)	畠田 照代	福井	建設	環境	農業	(株)北陸環境科学研究所	課長代理
理事(姓・幹員)	辰橋 浩二	石川	建設	環境		(株)国土開発センター	環境1部部長
監事	明石 秀司	富山	建設	総監	環境	日本海環境サービス(株)	取締役
監事	爲沢 剛	福井	農業			(株)帝国コンサルタント	
監事	中野 哲朗	石川	上下水道	建設	総監	中部地質(株)	副社長
相談役	有澤 良一	富山	建設			(株)アリサワ技術	代表取締役社長
相談役	橋本 栄治	福井	建設			(一社)福井県建設業協会	
相談役	屋敷 弘	石川	建設	農業	総監	屋敷技術士事務所	所長

7. 令和6年度（2024年度）行事予定（案）

開催予定月日	事業内容
2024年6月1日	北陸技術士試験研究会の協賛 総合技術監理部門受験講習会 ※中止もあり
2024年6月8日	令和6年度総会・特別講演会（金沢勤労者プラザ）
2024年6月8日	令和6年度新・既技術士交流会（ANAクラウンプラザホテル） ※令和5年度行事
2024年6月28, 29日	技術士会北陸本部 年次大会（福井県担当）
2024年7月14, 15日	技術士第二次試験（石川会場）14日：総監部門、15日：総監以外部門
2024年10月	技術士全国大会（北海道本部）
2024年10月26日	第1回役員会・第1回技術研修会（見学会）（福井開催）
2024年11月24日	技術士第一次試験（石川会場）
2025年4月26日	第一次試験合格者（JABEE含む）ガイダンス（金沢勤労者プラザ）
2025年4月26日	第2回役員会・第2回技術研修会（講演会）（金沢勤労者プラザ）
2025年4月26日	令和6年度新・既技術士交流会（ANAクラウンプラザホテル）

★★ 編集後記 ★★ これまでの「懇談会 会報」は名称を「FIT journal」と改めました！

2024年1月1日の能登半島地震は大きな被害をもたらしました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災された方々にはお見舞いを申し上げます。さらに、被災地の復旧・復興に尽力されている方々には感謝申し上げます。新型コロナウイルスも収束し、社会活動が活発化してきましたが、当面は、災害対応が主となりますし、被災地の復旧・復興には長い年月が必要だと思えます。

FITは、会員相互の親睦や交流を通して技術研鑽し、地域社会の発展に寄与することを目的としています。今回の能登半島地震に対して、お互いに情報共有しながら、様々な復旧・復興の場面を通して、能登地域のためにご尽力いただければ幸いです。朝の来ない夜はないと信じ、前を向いて進んでいきましょう！

【事務局】(株)日本海コンサルタント内 〒921-8042 金沢市泉本町2丁目126番地 TEL076-243-8258
北陸技術士懇談会 HP：<https://www.hokugikon.jp/> ※新しくなりました!!!